

営農情報

第93号平成22年8月26日発行

(大豆)

1 大豆の生育概況

7月8～10に播種された大豆は、その後の大雨により浸・冠水の被害を受け、一部でまき直しが行われました。

7月17日に梅雨明けし、播種は7月20～25日が中心となりました。

梅雨明け後の晴天・乾燥で出芽がやや遅れたものの、出芽後は順調に生育しました。

8月になって夕立が多くなり、大豆は旺盛に生育しています。

開花期は、7月8日播種で8月22日頃です。

2 ハスモンヨトウの防除について

8月始めにハスモンヨトウによる白変葉が見られましたが、その後の被害の拡大はなく、大豆ほ場でのハスモンヨトウはきわめて少ない状況です。

今年の場合、フェロモントラップの誘殺状況から、7月30日頃に1回目のピークがあり、8月25日頃に2回目のピークが見られます。このことから、**防除適期は次のとおりと予想されます。**

防除適期 9月3日～9日

3 防除薬剤

年々、カメムシ類の被害が大きくなっています。乗用管理機を使う場合、ハスモンヨトウとカメムシ類の同時防除を行いましょう。

対象病害虫	薬剤名	希釈倍率	使用回数
ハスモンヨトウ	プレバソンフロアブル5	4000倍	3回以内
	ノーモルト乳剤	2000倍	2回以内
カメムシ類	キラップフロアブル	2000倍	2回以内
紫斑病	トップジンM水和剤	1000～1500倍	4回以内

【散布量】 10a当たり100～300リットル